

中心市街地活性化事業としてのオープンカフェの効果に関する調査・分析

－国土交通省社会実験・オープンカフェ事業事例の分析を通して－

日大生産工（院） ○増山 淳
日大生産工 坪井 善道

1. はじめに

1－1 研究の背景

近年、中心市街地の衰退が深刻であり、平成10年度に施行された「中心市街地の活性化に関する法律」に基づき、各市町村では地域住民、関連事業者等が主体となり中心市街地活性化に向けて様々な取り組みが行われている。

その一つに道を活かし、地方公共団体や地域住民等が一体となり地域や都市において賑わいの創出を試みる**オープンカフェ事業**がある。また、同様な目的で国土交通省道路局が、新たな施策導入に際し、その導入をスムーズに行うことができるよう期間を限定し施策を行う社会実験でもこのような事業が行われており、特に注目されている取り組みである。

1－2 研究の目的

本研究では国土交通省道路局が推進している社会実験事業「オープンカフェ等地域主体の道活用」に注目し、全国で行われた事例を相対的に比較、考察することにより、オープンカフェ事業が中心市街地活性化に対し、どのような効果をもたらすのかを把握し、さらに同事業の効果に街路空間特性がどのように関わっているかを考察することを目的とする。

2. 研究の展開方法

2－1 社会実験の位置付け

国土交通省道路局が社会実験として行っている主な施策は大きく分けて六つあり、そのうちの一つに「オープンカフェ等地域主体の道活用」がある。平成13年度は実施地域1地域のみであったが、平成17年度には26地域で実施され関心が高まっている（表－1）。

社会実験の概念¹⁾は、新たな施策の展開や円滑な事業執行のため社会的に大きな影響を与える可能性のある施策の導入に先立ち、市民等の参加のもと、場所や期間を限定して施策を試

行・評価するもので、地域が抱える課題の解決に向け、関係者や地域住民が施策を導入するかどうかの判断を行うことである。

表－1 社会実験の施策名と件数

施策名	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	計
歩行者・自転車優先施策	1	1	1	1	11	9	4	28
オープンカフェ等地域主体の道活用	0	0	1	1	4	17	26	49
公共交通機関の利用促進	4	3	3	2	1	0	0	13
観光地の交通円滑化	1	1	3	3	0	0	0	8
自転車利用の促進	0	3	1	3	0	1	0	8
物流・駐車対策	0	1	3	0	2	0	2	8
その他の施策	0	0	2	4	2	1	1	10

2－2 調査対象地域の選定

平成17年現在、社会実験事業「オープンカフェ等地域主体の道活用」は6施策中最も多く、全国26地域で行われている（図－1）。

そのうち6月上旬頃、各事業主体宛メールでオープンカフェ事業効果に関する資料送付をお願いし、返信をいただいた12事業地域（12市）を調査対象とした（図－1）。



図－1 平成17年度社会実験の実施地域

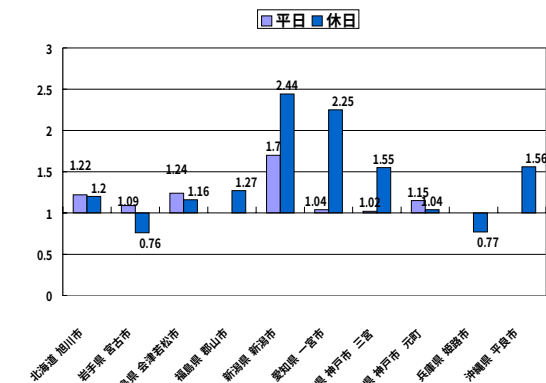
3. 調査方法

オープンカフェにより実験地域に賑わいの効果がどのくらいあるかを、各事業地域のアンケ

ート調査結果を基に、実験前後の歩行者・来街者数の変化、イベントの有無、オープンカフェに対する評価、周辺地域の売上、来客数の変化、今後の継続意向により考察する。

①実験前後の歩行者・来街者数の変化

各地域で行われた歩行者交通量調査により、実験前と実験中の歩行者通行量を比較したところ、伸び率が最大の地域では2.44倍、他地域でも伸び率に幅はあるが増加しており、実験による街中への集客効果は高いことが分かった（図－2）。



注) 市川市、金沢市、静岡市、については該当項目なし。

図－2 実験前後の歩行者・来街者数の変化の割合

しかし、各地域ともイベントの有無による歩行者・来街者数の増加も多く、オープンカフェ自体が必ずしも集客の効果を上げていると考えることは難しいといえる。

また、宮古市では実験中の歩行者・来街者数が実験前に比べ下がっているが、これは実験前の歩行者通行量調査の際、周辺的大型店舗がリニューアルオープンセールを行っていたため、データが著しく多くなったことによる。一方、姫路でも同等の数値となっているが、こちらも実験前の歩行者交通量調査の際、ふれあいバザールが開催され、交通量が多かったためである。

②イベントの有無

各地域では実験の中に、オープンカフェ以外に様々なイベントを盛り込んでいる（表－2）。イベント開催日には普段より歩行者・来街者が増え、地域がより活性化するため、街の賑わい創出のためには、オープンカフェのみでなくイベントとの連動性も重要であるといえる。

表－2 各地域のイベントの有無とその種類

地域名	イベントの種類
北海道 旭川市	真夏の屋台村(ビアガーデン) 吹奏楽コンサート タ市 ワゴンセール
岩手県 宮古市	フリーマーケット 街かどギャラリー 味覚イベント バンド
福島県 会津若松市	絵画の展示 バンド ストリートダンス 花いっぱい運動
福島県 郡山市	開会式/サマーフェスタ 花市 学園祭 郡山うねめまつり 子供の日 環境エコデイ 地産地消デイ ハートフルデイ なかまち夢スタジオ 音楽ウィーク 親子ふれあいデイ 文化伝承デイ きらめきストリート
千葉県 市川市	ソフトカー・プロジェクト 路上演奏 ご当地商品の案内 ストリートコンサート アルコール飲料の提供 地元商店会の名品
新潟県 新潟市	花や農産物等を提供する ファーマーズマーケット
石川県 金沢市	路上アートスペース 音楽のレンタル レンタサイクル
静岡県 静岡市	オープニング ダンス 太鼓 伝統芸 道で学ぶ 竹細工・折り紙 道でアート うまいもんつまみ食い フリーマーケット 道でバリアフリー 街歩き
愛知県 一宮市	ロードマーケット・ワゴン
兵庫県 神戸市 三宮	無
兵庫県 神戸市 元町	無
兵庫県 姫路市	無
沖縄県 平良市	ストリートマーケット 農産物朝市 フリーマーケット アトラクションプラザ

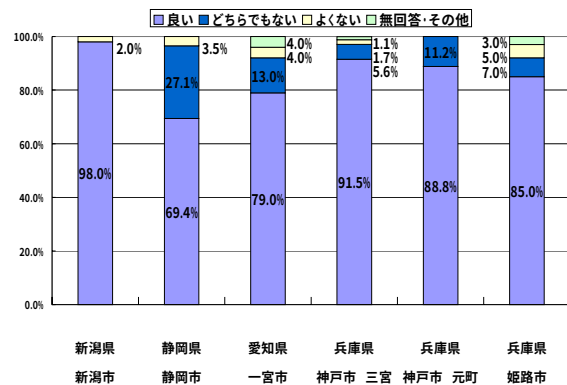
注) 一宮市では実験期間中の特定の休日にイベントを開催。
注) 神戸市ではKOBE観光ウィークにあわせて実施。
注) 姫路市は社会実験としての実施はないが、期間中の土日に大手前公園などではフリーマーケットなどのイベントが開催されていた。
周辺で実施されたイベントには、松浦亜弥コンサート、郷土芸能、ひめじ良さ恋まつり、姫路城観月会、カーフリーデー、ひめじ環境フェスティバル、日本青年会議所全国大会、国際交流フェスティバル、姫路城秋の特別公開、ひめじ福祉まつり、全国陶器市、姫路キャッスルウォーク、姫路ミュージック・ストリート、姫路植木市などである。
注) 沖縄県平良市のアトラクションプラザの詳細は、路上パフォーマンス、大道芸人、街角コンサート、駅伝大会、全国物産市、ブラスバンド、キッズプラザ、ジャズコンサート、雪にふれたい、消防車出動、FM局中継、宮古TV中継、歌謡ショー、聖歌隊、その他

③オープンカフェに対する評価

オープンカフェの評価について、アンケート共通項目を抜粋する際、会津若松市では、来街者アンケート、商店街アンケート項目の「オープンカフェの設置についてどう思うか」「オープンカフェ実施により通りの雰囲気は良くなったか」、郡山市では来街者ヒアリング調査項目の「通りの楽しさの変化」、新潟市では、利用者アンケート、店主アンケート項目の「道路上でこのような使い方についてどのようにお考えですか」をオープンカフェに対する評価と読みかえて比較を行った。また、姫路市のオープンカフェに対する評価では洋風テラスと、和風テラスに対する評価が分かれていたので、それぞれの平均の値を用いた。

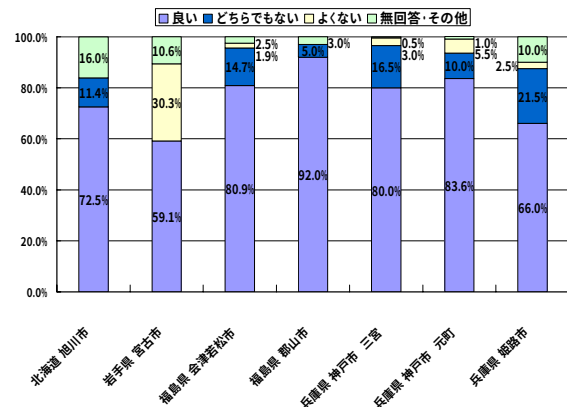
その結果、実験期間中に各地域で利用者、歩行者・来街者、商店街に対して行われたアンケート調査結果から、共通した質問項目を抜粋し、比較したところ、利用者では平均して8割以上が、歩行者・来街者、商店街に関しても7割以上が「良い」とし、オープンカフェに対する評

価は全体的に見て結果は良好であった（図－３）
（図－４）（図－５）。



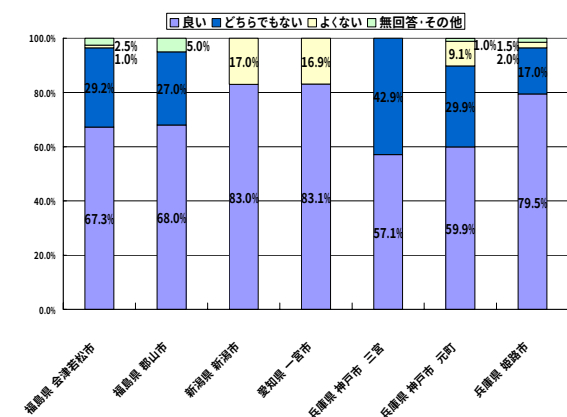
注) 旭川市、宮古市、会津若松市、郡山市、市川市、金沢市、平良市については該当項目なし。

図－３ オープンカフェに対する利用者の評価



注) 市川市、新潟市、金沢市、静岡市、一宮市、平良市については該当項目なし。

図－４ オープンカフェに対する歩行者・来街者の評価



注) 旭川市、宮古市、市川市、金沢市、静岡市、平良市については該当項目なし。

図－５ オープンカフェに対する商店街の評価

平良市については共通項目該当データはないが、催し物でよかったもの（複数回答）との項目に対し、オープンカフェとの回答が最も多く、これらが街路景観に大きな影響を与えているこ

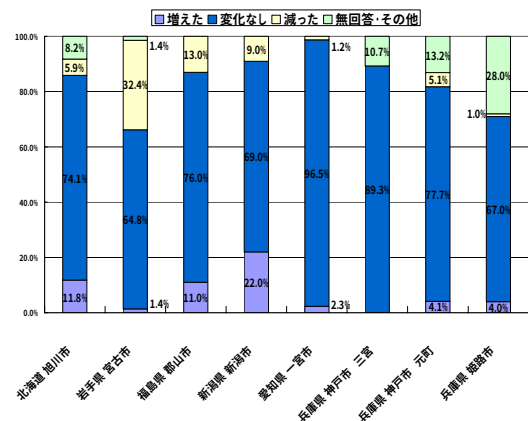
とが窺えた。

アンケート項目、自由意見欄では「通りが賑やかになった。」「通りがきれいになった。おしゃれである。」「景観が良くなった。」「外で風を感じられて気持ちいい。」など好意的な意見が多くあったが、一方で「街並を統一してほしい。」「歩道が狭い。」「騒音・排気ガスが気になる。」などの意見もマイナス意見も見られた。

④周辺地域の売上、来客数の変化

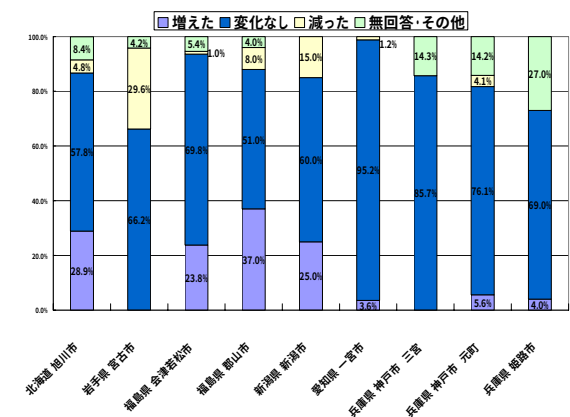
実験終了後、各地域で周辺商店街に対し行われたアンケート調査によると、売上、来客数ともに普段に比べ特に変わらないとの回答がほとんどであった（図－６）（図－７）。

実験によりまちなかへの来街者の増加はあったものの、売上が伸びたり、来客数が増えるということに必ずしも繋がらないことが明らかとなった。



注) 会津若松市、市川市、金沢市、静岡市、平良市については該当項目なし。

図－６ 実験による売上の変化の割合

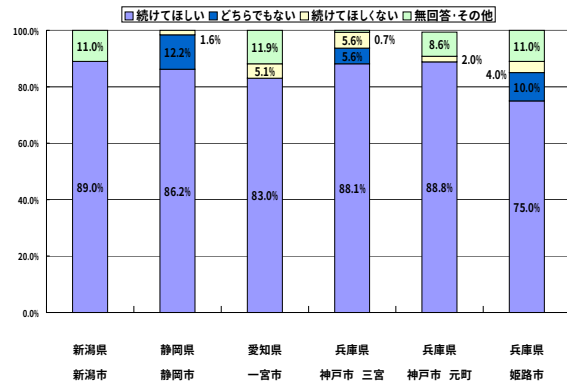


注) 市川市、金沢市、静岡市、平良市については該当項目なし。

図－７ 実験による来客数の変化の割合

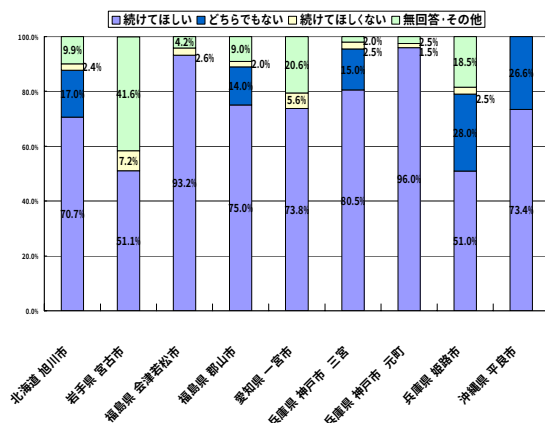
⑤今後の継続意向

各地域とも利用者の8割以上の人が、オープンカフェの継続を望んでいることが分かった(図-8)。また、商店街でも売上や来客数の増加には直接結びつかなかったものの、商店街の活性化、通りの賑わいの創出に効果があるとし、継続を望む声が多くあった(図-9)(図-10)。



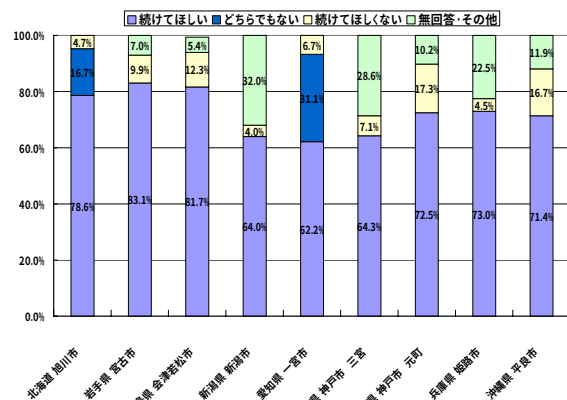
注) 旭川市、宮古市、会津若松市、郡山市、市川市、金沢市、平井市については該当項目なし。

図-8 利用者のオープンカフェの継続意向



注) 市川市、新潟市、金沢市、静岡市については該当項目なし。

図-9 歩行者・来街者のオープンカフェの継続意向



注) 郡山市、市川市、金沢市、静岡市については該当項目なし。

図-10 商店街のオープンカフェの継続意向

今後の継続意向についてのアンケート項目を抜粋し、比較する際、新潟市、静岡市ではそれぞれ利用者アンケート調査項目の「この取り組みを今後継続することについてどうお考えですか」「このような試みは今後も実施されるべきか」をオープンカフェの継続意向と読みかえた。歩行者・来街者、商店街アンケート項目の「オープンカフェ等イベントの継続」「まちなかフェスタの継続開催について」についても同様に継続意向に読みかえ、値を用いた。

4. まとめ

今回の調査結果より、歩行者・来街者数の増加、また利用者、歩行者・来街者、周辺商店街いずれもオープンカフェに対する評価、継続意向ともに高いことが分かった。これによりオープンカフェが賑わいを創出する一つ的手段として成立することが明確となった。

しかし、周辺店舗の売上、来客数の増加には直接つながらないことも明らかとなり、課題が残る結果であった。

社会実験は期間が限定されているが、オープンカフェ事業は恒常的に実施していく必要があると思われる。

今後は実験地域の地域特性、街並、道路形態、周辺店舗業種、またテーブルや椅子等の配置の分類により、オープンカフェを日常化させていくための、適切な街路空間形態のあり方を示していく必要がある。

<参考文献・URL>

- 国土交通省道路局 社会実験の推進HP
<http://www.mlit.go.jp/road/demopro/index.html>
- 旭川商工会議所・TMO 推進室 その他
平成17年度『オープンカフェ等地域主体の道活用に関する社会実験』旭川北の賑わい回廊」社会実験事業報告書
- リファースト商店街実現化社会実験実行委員会
「リファースト商店街実現化のための社会実験」実施報告書
- 神明通り商店街振興組合
「オープンカフェ事業関係資料」
- 郡山商工会議所
「郡山にぎわい・夢カフェ社会実験2005」調査報告書(概要版)
- 市川オープンカフェまちづくり実行委員会
「商業地再生を目的としたオープンカフェ運営実験」事業報告書
- 地域インフラ研究会HP
「一番堀・ファーマーズマーケット社会実験」
<http://www.t-infra.or.jp/>
- 社団法人金沢経済同友会
「金沢広坂オープンカフェ社会実験」報告書概要版
- みちの静岡コミュニティシンクタンク・静岡市
平成17年度「中心市街地の回遊性を高めるための道のにぎわい創出実験」調査報告書
- 一宮市
平成17年度「道を活用した「夢のある空間づくり」社会実験業務委託」報告書
- 三宮・元町オープンカフェ連絡協議会 神戸市建設局道路部管理課HP
「三宮・元町オープンカフェ社会実験調査」
<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/30/020/senyo/17opencafehoukou/boutou/17houkokukantoubu.pdf>
- 姫路市中心市街地公共空間活用社会実験連絡協議会
「中心市街地再生に向けた公共空間を活用した賑わい創出実験(オープンカフェ)」調査報告書
- 宮古島商工会議所
「宮古島社会実験・にぎわいのあるまちなか創出のための実験」報告書